



自分の人生に責任を持つ

私立高校の出願が本格的にスタートしています。願書に記入する事柄は受験（検）する本人が記入します。私自身も中学3年生の時は緊張しながら、精一杯綺麗な字で住所や名前や受験（検）する学校のコースなどを書いていきます。願書が書き終わったら見直して間違いがないかを保護者にも確認して、担任の先生に提出しました。願書を提出する期日から逆算して、受験（検）票に貼る写真の用意などをしたものです。手続きを進める中で、悩んだりわからない部分は、担任の先生に質問して誤記がないようにしたものです。このようなことは、当たり前のことで、自分で自分を管理しました。

出願が昨日からスタートしましたが、本日出願日なのに、出願書類の準備ができていなかったり、受験（検）する 高等学校のコースや科がわからなかったりする生徒がいました。このような生徒は、「最後は誰かが手を差し伸べてやってくれる」という考えがしみ込んでいると思われる。小学校の低学年ぐらいまでは、保護者が全て名前を書いてくれたり、準備してくれたりしてくれるかも知れません。しかし、小学校中学年のころから、明日の持ち物や提出物など自己管理して自分のことは自分で責任を持つようにされたと思います。しかし、小学校高学年になっても自分で何もしないで、全て保護者に任せている。または、すべて担任の先生に指導してもらっていると、いつまでたっても自立ができないで、自分のことを自分で管理することができなくなってしまいます。そんな生徒に限って「先生が、言ってくれなかった。親がやってくれなかった」など失敗すると人の責任にして、自分の自立していない部分を反省することをしません。ですから同じことを繰り返してしまいます。

中学生3年生の進路は、自分で進路を決め、自分で責任を持つことが大切です。責任を持てるかが大人になる一歩となるわけです。人任せでなく、自分の生き方に責任を持っていきましょう。